



カッパからチュパカブラまで 100 の未確認生物を図鑑化！ 子どもたちの知的好奇心を満たす「UMA」の世界

株式会社高橋書店（東京都文京区 代表取締役：高橋秀雄）は1月30日に「ふしぎな世界を見てみよう！」シリーズ第5作目の『未確認生物大図鑑』を発刊しました。「出会いたくなる UMA（ユーマ）」をコンセプトに、臨場感やわくわく感、UMA の面白い魅力を引き出すことを目指して製作した本書は、UMA ファンの方だけでなく、生き物が好きなお子様にも楽しんでいただける一冊になっています。

◆未確認生物（UMA）ヒットの歴史、いつの時代も人々の心をつかむ「UMA」のロマン

ツチノコやビックフット、ケサランパサランなど、未確認生物（UMA）は、どんな時代も人気のテーマ。UMA 研究の歴史は今から遡ること 130 年…1889 年のイエティ発見から始まりました。

その後 1933 年にネス湖のネッシーが撮影され一躍話題に。さらに日本では 1970 年代に「ツチノコブーム」が訪れ、「Unidentified Mysterious Animal」を略した“UMA”という言葉が広まりました。以降、テレビや映画、書籍や雑誌・マンガなど様々なメディアで取り上げられ続けています。



◆子どものうちに、UMA に関心を持つメリットがある

「UMAなんて非現実的なもの…」と、顔をしかめていませんか？ 実は UMA に関心を持つことは、子どもたちのさまざまなチャンスの入り口になりえます。

UMA は「未確認動物学」という生物学的・科学的視点から解明され始めており、「未確認動物学」は「既知の生物」の生態をしっかりと知っていないと成り立たない学問です。体の色や大きさ、鳴き声や食べ物・習性など、ありとあらゆる知識が必要です。UMA を知りたいと思うことは、地球上にいる生物を学ぶきっかけになります。

さらに UMA は「自然」「地理」「歴史」などの分野に通じる部分があります。例えばこの「イッシー」……



発見場所は鹿児島県にある池田湖。

1961 年に発見され有名になりました。しかし、実は江戸時代から存在したのでは…という説もあるそうです。

これだけでも

- ・鹿児島県池田湖はどこにあるのか？
- ・池田湖はどんな湖か？
- ・江戸時代はどんな時代か？
- ・1960 年なぜ有名になったのか？

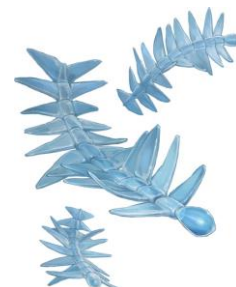
など、たくさんの謎が派生してきます。これらがさらなる調べ学習につながり、知識を取り入れるチャンスになります。

未確認生物を単体でとらえず、そこからさまざまなジャンルに子どもたちの関心を引き延ばしてあげることが、より子どもたちの好奇心を刺激し、苦手意識を持つことなく学ぶ「自立学習」につながります。

また、「未知のものと触れ合う経験」は子どもたちにとって、大人になる上で大切な役割を果たします。柔軟な発想の中で「未知のものは怖い」や「ワクワクする、おもしろい」と感じ、考えてみる。この経験が自ら考え、可能性を切り開く力を育むのです。

◆『未確認生物大図鑑』著者 山口敏太郎氏ってこんな人

1996年に論考「妖怪進化論」を発表。同論文が学研主催の『ムー』ミステリーコンテストで優秀賞を受賞し、作家デビューを果たしました。著書は170冊を超え、「ビートたけしの超常現象Xファイル」(テレビ朝日)、「マツコの知らない世界」(TBS)、「おはスタ」(テレビ東京)など、テレビ・ラジオ番組出演も多数！ 科学的な考察を得意とし、未確認生物や妖怪の研究家として知られています。(1966年徳島県生まれ。神奈川大学卒。作家・漫画原作者。(株)山口敏太郎タートルカンパニー代表取締役。)



◆書誌情報



『未確認生物大図鑑』

監修：山口敏太郎 / 価格：1,100円＋税

発行：1月30日 / 頁数：192ページ



「ふしぎな世界を見てみよう」シリーズ好評発売中



「調べて」「実際に見て」「考える」…「ふしぎな世界を見てみよう！」シリーズを持って調査に行ってみよう！

知識は、教えられるだけでは定着しません。例えば「三角おにぎりのつくり方」を想像してみてください。「手の平をコの字に折り曲げて、120度ずつ回転させながら、米をつぶさない程度の力でやさしく握る」…この説明では、理屈は分かって握れる気がしません。実際につくってみて手順を理解するのです。

図鑑も同じです。読むだけでも、おもしろいしタメになりますが、それではその中に描かれていることしかわかりません。ゾウは大きいとあるけれど、実際はどのくらい大きいのか。オトシブミの卵を巻いた葉っぱは本当に落ちていたのか。気になるUMAや生き物がいたら、実際に探しに行ったり、見に行ってみましょう。動物園や水族館・昆虫館、海や森に探検に行くのもいいでしょう。

「知識」は「実体験」をともなって、血肉になっていきます。出かけた先でお目当ての生き物に会えなくても、自然を知り、そこで暮らす生き物を知ることは、「地球で生きるということ」を考えるきっかけになるでしょう。

【当リリースに関するお問い合わせ先】 高橋書店 広告・広報部 (担当：多田)

TEL：03-3943-6583 FAX：03-3943-4051 MAIL：koukoku@takahashishoten.co.jp

プレパブのご相談、いつでも承ります。お気軽にご連絡ください。